

さぬき野

かがやくけん、かがわけん。

香川県

2026 No.93

夏

ヤドンと遊ぶ 夏休み。

特集 爽快、レモン旋風は未来へ。

山口一郎インタビュー

香川に根を下ろして、世界を見つめる。

ヒト×モノ讃岐デザイン

香川の銘石から生まれる器、「Locci」。



釣り好き少年、 瀬戸内で漁師に。

漁師、食堂「漁師のごはん屋うえちゃん」経営
上田 真也さん

津田港で、妻と娘の光莉さんと。
漁の規模拡大と改善を計画。
「漁師の後輩が、ぜひとも欲しい」という思いは切実。



移住仲間、「ウラツダ」の経営者仲間が
祝福してくれた愛優美さんとの結婚式。



学校や地元のイベントで、
漁業・食振興のワーク
ショップも担当。ボード制
作はウェブデザイナーの
経験がある愛優美さん。

感じ始めると、いったんは手放した海と魚への思いが再燃し、漁師への転職を決意する。狙いは瀬戸内海。中学の修学旅行で訪れた淡路島の漁業体験で、驚くほどの大漁を目の当たりにして以来、憧れの海だ。沿岸各地の自治体が実施する漁業就業支援施策を調べ、選んだのが「かがわ漁業塾」である。

2021年にさぬき市津田町に移住。漁業塾で指導役を務めてくれたのが、後継ぎを探していた津田町の師匠だった。現在も師匠と共に漁に出つつ、自分でも船を持ち、定置網漁、タコ、イカ、ワタリガニ漁を行っている。

取った魚の価値を高めたい、おいしく食べてもらいたい。そんな気持ちから2025年には「漁師のごはん屋うえちゃん」を

開店した。深夜一時から4時まで海に出て、軽トラで市場に出荷。6時に帰宅したら仮眠を取り、起きたら仕込みをして、妻の愛優美さんと1時から店を開ける。激務ではあるが、漁も店も自分の裁量で経営でき、規則や人間関係の窮屈さがないのは快適だ。

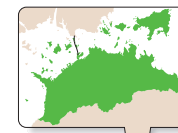


漁師、食堂「漁師のごはん屋うえちゃん」経営
上田 真也さん

愛知県で生まれ、福井県で消防士に。妻とは大学のアカベラサークルで出会い、福井、香川と共に移住。2023年結婚。



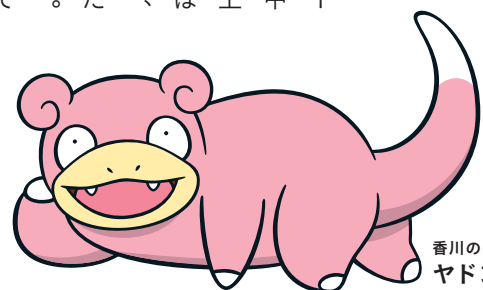
一番人気のタコ飯は、津田の海で取れたタコがたっぷり。お米はさぬき市の隣の東かがわ市産のもの。テイクアウトもできる。



うどん県とヤドンの 楽しい関係。

ゲームの中だけにとどまらず、アニメ、カードゲーム、グッズやさまざまな作品が世界で愛されているポケモン。1000種類以上のポケモンが存在する中で、なぜか香川では「ヤドン」を目にすることが多い。電車、バス、フェリーから、公園、土産物、マンホールのふたまで。ピンク色のかわいい姿があふれている。その理由は、ヤドンが「うどん県PR団」として活動しているから。10年以上上の企画をきっかけに香川とヤドンが結びつき、楽しい関係が現在まで続いているのだ。

事の始まりは2015年4月1日のエープリルフル企画であった。香川にはヤドン研究センターがあり、そこからヤドンが逃げ出したという架空の情報をSNSで発信し、地元新聞に掲載したところ、想定を上回る反響を



香川の特産品である「うどん」と「ヤドン」の音の響きが似ている他、ヤドンが「あくびをすると雨が降る」という言い伝えが水不足で悩まされている香川と相性が良く、ヤドンの「しっぽが甘い」ことも香川の和三盆や希少糖とリンクする。

ファーストコンタクト

2015年4月1日「ヤドン800匹大脱走」のエープリルフル企画。極秘のヤドン研究センターから800匹のヤドンが逃亡。



とぼけた表情と、のんびりとした雰囲気。世代を超えて愛されるヤドンと一緒に、香川の夏旅はもっと楽しくなる。

香川の夏旅を ヤドンと一緒に。



ヤドンがヤドン県知事に！
2018年4月1日「ヤドン県へ改名」のエープリルフル企画。香川県はヤドン県に改名し、ヤドンが知事に就任した。

得ることができた。「うどん」と「ヤドン」の音の響きが似ているという小さな、しかし共感しやすい縁が生んだ企画である。その後、2018年のエープリルフル企画では、うどん県知事ならぬヤドン県知事としてヤドンが就任。この時に「うどん県×ヤドン」の最初のコラボ商品が登場している。そして同年12月、株式会社ポケモンと「地域活性化に関する連携協定」を締結し、ポケモンローカルActsの取り組みとして正式にヤドンが「うどん県PR団」として活躍することになった。それ以降、毎年「ヤドンパレード in 香川」を開催し、一緒に香川をPRしている。

2023年には綾川町にヤドン公園が開園した他、株式会社ポケモンの伊藤CBOと池田知事による当誌での対談が実現。その時の「ヤドン」をテーマにした作品の制作ができた」との話題をきっかけに、県立高松工芸高等学校においてヤドンにまつわる工芸品やポスターなどの制作も行われた。さらに2025年に誕生したポケモンセンターカガワでは、エントランスでヤドンが出迎えるなど、ヤドンと香川のつながりは広がり続けている。

ヤドンには、見ている人の心を解きほぐす魅力がある。この夏、香川でヤドンを見つけてもいいし、お気に入りのヤドンと一緒にあちこち巡ってもいい。きっと、リラックスした楽しい旅の時間になる。



スタンプラリー開催中

香川県内を巡って、観光スタンプ3個と切符スタンプ1個を集めるとヤドンのお皿など、「うどん県×ヤドン」のコラボグッズが当たる。

開催期間

2026年4月24日(金)～12月31日(木)



スタンプの設置箇所など詳細は左記二次元コードを参照。

ポケモンローカルActs

道や県ごとに選ばれた「推しポケモン」が、国内外への地域の魅力発信を手伝う活動。地元の団体・企業との協力により、推しポケモンのデザインを施した乗り物の運行や土産物の発売が実現している。



のんびり、ゆったり ヤドン公園

香川県綾川町にある、ヤドンをテーマにした公園。長さ約5㍍、高さ約2㍍の「みんなのヤドン」の他、ヤドンをモチーフにした6つの遊具がある。正式名称は「ひだまり公園あやがわ」。

香川県綾歌郡綾川町萱原253-7

開園時間 午前7時～午後8時





1 高松市



2 丸亀市



3 坂出市



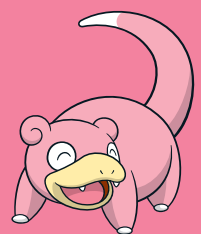
4 善通寺市



5 観音寺市



18 ヤドン公園



ヤドンはどこだ？ 17市町で宝探し。



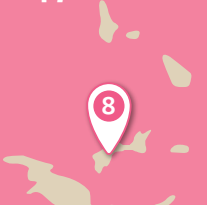
17 まんのう町



7 東かがわ市



7 東かがわ市



16 多度津町



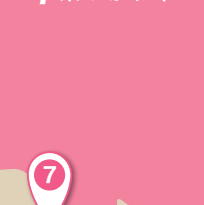
16 多度津町



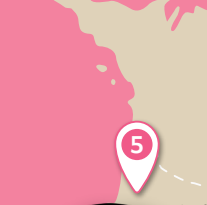
16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



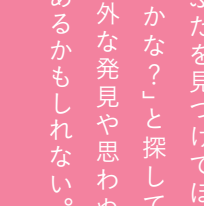
16 多度津町



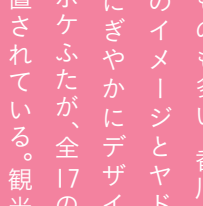
16 多度津町



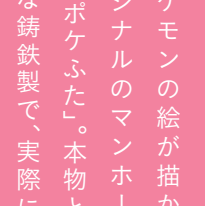
16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町

香川県の
ポケモンマンホール
「ポケふた」



ポケモンの絵が描かれたオリジナルのマンホールのふた「ポケふた」。本物と同じ丈夫な鋳鉄製で、実際に下水道のふたとして利用されているものも多い。香川では、地域のイメージとヤドンをちがにぎやかにデザインされたポケふたが、全17の市町に設置されている。観光地を巡る時には、ぜひ近くにあるポケふたを見つけてほしい。「どこかな？」と探していると、意外な発見や思わぬ出会いがあるかもしれない。



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



16 多度津町



ヤドンの電車

コトコト、ヤドンと各駅停車の旅を楽しむ。

香川の私鉄「ことでん」では、琴平線にて「うどん県×ヤドン号」、通称「ヤドンの電車」を運行している。ヤドン公園の最寄り駅・綾川駅まで移動できる他、瓦町駅、仏生山駅、綾川駅では、駅名板のデザインがヤドン仕様になっている。瓦町駅を発車する際にはヤドンのうた「どないやねん ヤドン」をモチーフにしたメロディーが流れるのも聞き逃さない。

【お問い合わせ】ことでん運営業所 TEL087-831-6008



各地を結ぶ空港リムジンバスでもヤドンが送迎。



ヤドンがラッピングされたリムジンバスが、香川のあちこちを走っている。JR高松駅と高松空港を結ぶことでんバスに、綾川町のヤドン公園を經由し丸亀市と高松空港を結ぶ琴参バス。西讃観光は、四国中央市から観音寺・善通寺・丸亀を巡るバスを運行している。旅の始まりも帰り道もヤドンと一緒に。どのルートに乗るかで、出会える景色が少しずつ違うのも魅力である。

ヤドンのバスの運行情報は、各社のHP等でご確認ください。

【お問い合わせ】

ことでんバス運輸サービス部 TEL087-821-3033(平日午前9時～午後5時)

琴参バス TEL0877-22-9191(年中無休 午前7時30分～午後9時)

西讃観光 TEL0875-25-1200(日曜・祝日を除く午前9時～午後5時)

ヤドンを貸し切ってじっくり香川を巡る。

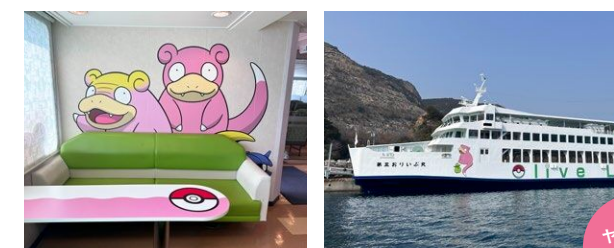
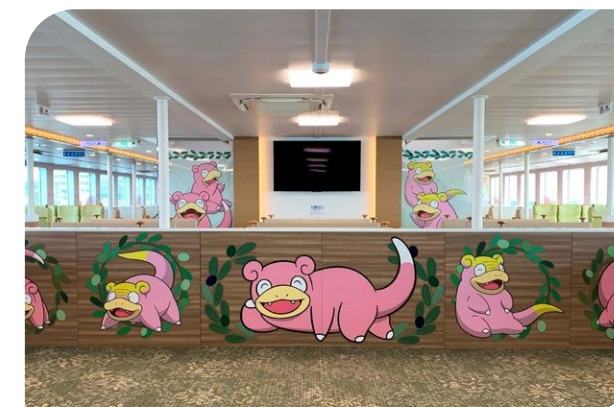
ヤドンと一緒に、香川を巡る。そんな少しぜいたくな願いをかなえてくれるのが「ヤドンのタクシー」である。ヤドン仕様のマンホールをたどる「ポケふた巡りコース」と、行き先も過ごし方も自由な「のんびりフリープラン」、二つのコースを中心にして、時間に追われずヤドンとの旅を味わえる。

【お問い合わせ】

せとうちタクシー TEL087-811-5850(平日午前9時～午後5時)



ヤドンのタクシー



ヤドンのフェリー

瀬戸内海の夏旅もヤドンと過ごしたい。

穏やかに風を切りながら瀬戸内海を渡る、香川ならではの船旅へ。高松港と小豆島・土庄港を結ぶ「ヤドンのフェリー1号船」と、小豆島・福田港と姫路港を結ぶ「ヤドンのフェリー2号船」。一歩足を踏み入れば、船内にもあちこちにヤドンの気配があり、思いがけない場所でのヤドンとの出会いも楽しい。

【各港の連絡先】

小豆島フェリー株式会社

高松のりば TEL087-822-4383 土庄のりば TEL0879-62-0875

福田のりば TEL0879-84-2220 姫路のりば TEL079-234-7100

上記受付時間は全て午前8時～午後7時30分



ヤドントンブラー ヤドントンカップ

木製の自然の風合いで、熱いものから冷たいものまで一年中使える。香川漆器ならではの艶と輝きを楽しみたい。



ヤドントンブリ (香川漆器)

江戸時代に藩主の保護のもと発展した香川漆芸。伝統の技が生んだ、ピンクの色素と漆絵で気高いシルエットが浮かび上がる漆器の昇。



ヤドントン手拭い (讃岐のり染) ヤドントン保多織ハンカチ

もち米からできたのりを置いて染め上げる讃岐のり染の技法で一枚一枚手染めした「ヤドントン手拭い」。保多織のハンカチは、通気性・吸水性が高く、優しい肌触り。

撮影協力「かがわ物産館 栗林庵」

香川県高松市栗林町1丁目20番16号 (特別名勝栗林公園東門横) 特別名勝栗林公園にある県産品を扱うアンテナショップ。ヤドントングッズなどオンラインショップでも一部購入可能。

年中無休/11月~1月:午前9時~午後5時、2月・10月:午前9時30分~午後5時30分、3月~9月:午前10時~午後6時



かがわ物産館
栗林庵の
オンラインショップ

ヤドントンのようかん

さぬぎ和三盆を使った「ヤドントンのようかん」。香川県の名所をイメージした特製パッケージで3種類の味があり、バラ売りで箱売りがある。



ヤドントンの丸亀うちわ

丸い形と小判型の2種類があり絵柄は全4種類。国の伝統的工芸品に指定されている丸亀うちわ。夏の旅には欠かせない。

ヤドントンのおはし

ヤドントンのしっぽをイメージし、庵治石の粉を混ぜた漆で仕上げた香川漆器の「ヤドントンのおはし」。軽くて丈夫、手放せないマイ箸になる。

和三盆ヤドントン

讃岐の地に200年以上続く高級甘味「和三盆」から生まれたヤドントンの干菓子。色や形に心躍る。ヤドントンのしっぽに劣らぬ甘さ。



ことひら温泉琴参閣

帆掛け船のヤドントンと「こんぴら船々」を歌おう

金刀比羅宮の門前町にはこんぴら温泉郷があり、本殿までの石段を上り下りした体をリフレッシュする湯として、参拝と併せて親しまれている。

琴参閣は、さまざまな湯種の大浴場や眺めのいい露天風呂、露天風呂付きの客室などが人気の大型観光旅館。ここのヤドントンのお宿は、畳の間とベッドが組み合わさった、家族連れやグループ旅行にぴったりの和洋室だ。

部屋の壁では、松の樹上や竹林でくつろいだり、「こんぴら船々」を口ずさみたくくなるような帆掛け船で寝そべったりと、和風のヤドントンが目新しい。琴平町のお隣、三豊市で作られた張り子が並び、金刀比羅宮のある象頭山を望む窓にもヤドントンが潜む。

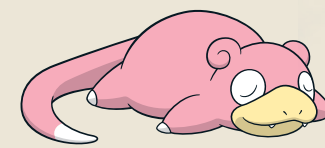
ここを目当てに日本全国、さらにアジアや欧米からもたくさんのゲストがやって来る。温泉で安らぎ、ゆったりマイペースなヤドントンに癒やされる至福は、万国共通なのだろう。

ぐっすり眠って旅の疲れが取れた翌朝は、門前町へと冒険に出かけよう。

香川県仲多度郡琴平町685-11



夢の中でも会えるかも。



丸亀城

丸亀プラザホテル

ヤドントンとうどんの共演に、お城も参戦。

JR丸亀駅から徒歩5分ほどの市街地にある、観光客にもビジネス客にも好評な丸亀プラザホテル。

ここのヤドントンのお宿は、日当たりのいい室内にピンクのヤドントンが躍り、明るさと元気が満ちている。笑顔で戯れているのは、なんとうどんの麺。ヤドントンとうどんの共演は、うどんの名店が多い丸亀ならではの心憎い演出だ。

さらにご当地らしさを加えるのは、窓から見える丸亀城。江戸時代から残る「現存12天守」の一つである。ポケモンファン

タジーに包まれた空間から、歴史ロマンあふれる城郭を望めば、感性が拡張するような不思議な時間が流れ始めることだろう。



この宿にも、世界中から大人も子どももやって来る。ヤドントン公園やポケふたを巡り、「ヤドントンのお宿」をはしごするツワモノも。丸亀から西へ東へ。香川のヤドントンを全制覇したくなる。

香川県丸亀市塩飽町50-3

JR丸亀駅から徒歩5分ほどの場所に建つ、旧電電公社の建物を改修したビンテージ感の漂うビル。その1階にあるのが、スタイリッシュさで目を引く「タンジールカフェ」だ。オーナーの石田琢磨さんが、埼玉県で経営していた飲食店の人気メニューだったレモネードの専門店として、2023年に丸亀市で開業した。

香川県でのレモンの出荷最盛期は秋から冬にかけて。その時期のレモンを中心に大量にシロップを製造し、一年中、注文ごとにレモネードに仕立てている。

「収穫したての香川のレモンは、酸味、甘味のどちらも濃く、香りも華やか。皮まで漬け込めるので、味わいがより深くなります」。レモネードは約20種類と多彩。一番人気は、炭酸で割ったいわゆるレモンスカッシュで、牛乳やエスプレッソなど思いがけない組み合わせのものもある。しっかりとしたレモンの味わいが、他の素材に負けないからこそ成立するブレンドだと言う。

今年3月、このシロップがドイツに渡った。丸亀市が、グリーン・デスティネーションズ^{*}が実施する、2025年版「世界の持続可能な観光地TOP100選」に選ばれ、さらに最終審査で「ビジネス&マーケティング部門」の世界2位を受賞。ベルリンで行われた授

賞式にシロップが持ち込まれたのだ。

受賞の背景には、環境循環型の観光ビジネスの実現があった。タンジールカフェのレモネードシロップは三豊市仁尾町の「まるく農園」で栽培されたレモンで製造する。まるく農園の農地は、タンジールカフェと同じ丸亀市にある大名庭園「中津万象園」で剪定された松葉に覆われている。廃棄されていた大量の松葉が、防寒や乾燥防止の役割をしつかり担っているのだ。そして、中津万象園のレストランでは、事前に注文があればタンジールカフェのシロップで作るレモネードを提供しており、文化施設と果樹農家、加工販売店を、レモンがぐるりとつなげている。

この循環を関係者に提案したのが丸亀市だった。観光により長期的に地域を発展させる事業の実現と、その実現に市と、市内外の学校が関わり、産官学が連携したことが評価された。丸亀市では、中学・高校で、生徒が学食で販売会を実施するなど、魅力ある地域資源を発掘・発信する人材の育成にもレモネードを活用。10代の若者も巻き込んだ地域のトレンドになっている。

近年、食えることと共に背景の食文化を知る旅が話題である。一杯のレモネードに隠された丸亀の物語も、ぜひ現地で味わう価値がある。

香川では、未来の旅と街を明るくする、レモン旋風が吹いている。

※「グリーン・デスティネーションズ」とは、持続可能な観光地の国際認証機関であるオランダの非営利団体。

爽快、レモン旋風は未来へ。

温暖で雨の少ない香川県は、柑橘類の栽培に適した地域である。^{かんきつ}
中でも注目されているのが、栽培歴40年以上を誇る、瀬戸内の豊かな自然が育んだ、風味あふれるレモンだ。
丸亀市には、その県産レモンを使ったレモネード専門店がある。
一口飲めば、清涼な風が体中に吹き抜けるレモネードは「環境循環型の観光ビジネス」のシンボルになっている。



「ビジネス&マーケティング部門」の世界2位を受賞。



タンジールカフェオーナー石田琢磨さん。20回も香川に来るほどのうどん好きが高じて丸亀市に移住。昨年うどん店を出店し、輪切りレモンを並べたレモンうどんも販売。



処分にコストがかかっていた約1,500本分の松葉が、レモン農園では果樹を守るグランドカバーとして大活躍。これは中津万象園の庭師さんのアイデア。

中津万象園



松葉の防寒効果が越冬し、初春に収穫するレモンで作ったシロップは、特別なラベルで販売。中津万象園で親しまれる大傘松と、江戸期に地域を治めていた京極家の家紋をあしらっている。

り
璃の香。
夏の柑橘も登場



さぬき讃レモン

璃の香

香川県では、穏やかな気候と豊かな自然環境の中で、登録生産者が大切に育てたレモンを「さぬき讃レモン」として売り出し中。
また、レモンの一種「リスボン」にヒュウガナツを交雑して開発された「璃の香」の生産にも勢いがある。こちらは、酸味のまろやかさとヒュウガナツの独特の香りが特徴で、8月から9月にかけて果皮が緑の状態でお届けされている。

香川に移住したいきさつと、坂出市を拠点に活動を続けている理由を教えてください。

僕が初めて香川を訪れたのは、猪熊弦一郎先生の作品が大好きで、丸亀市にある猪熊弦一郎現代美術館を訪ねたことがきっかけでした。当初は一週間ほどの旅のつもりだったのですが、たくさんの方々に恵まれて、気づけば半年近くも滞在していました。その心地よさがきっかけで2011年に移住を決めました。

現在は坂出市を制作拠点にしていますが、ここには画家として活動を続けるために必要な環境が全てそろっています。なじみの画材屋さんがあり、額縁を仕立ててくれるショップがあり、特注の箱を作ってくれる段ボール工場や、夜遅くまで荷物を受け付けてくれる運送拠点もある。創作活動を支える機能がコンパクトに凝縮されていることに助けられています。それともう一つ。僕は飛行機が苦手なので新幹線での移動がメインになるのですが、坂出市は岡山までのアクセスが良好です。そして、何より「みどりの窓口」が混み合わない。移動の多い僕にとっては代えがたいストレスフリーな環境です。

山口さんの作品は花や動物をシンプルに描かれています。ですが、どのような思いを込められていますか。

日本にはまだ、日常的に原画を自宅に飾るという習慣が根付いていないように感じます。だからこそ、初めて絵を手取る方が「これを飾ってみたい」と直感的に思えるようなシンプルな表現を大切にしています。ポスターカラーで彩る花や、鉛筆一本で命を吹き込む動物たち。書道にも通じるような、迷いのない潔い線と余白の美しさを意識しています。花は画家

としての活動初期から描き続けているモチーフで、今では名刺代わりになっていますね。特定の花ではなくて、僕の内側にあるものを描いています。

県内のイベントや取り組みに積極的に協力されており、今や「私たちの山口一郎」と感じている県民の方も多いようです。地域との繋がりについてはどうお考えですか。

そう言っていただけるのは、本当に光栄なことです。実は僕、自分のことを「最高のイエスマン」だと思っているんです。

「山口さんにこれをお願いしたい」と声をかけていただけたら、スケジュールが許す限り「やりましょう」とお答えしたい。丸亀市市民交流活動センター「マルタス」の壁画制作や、三豊市の公園の遊具のデザイン、地元のスランプリーへの協力などなど。これらは全て、僕の絵を通じて地域の方々と繋がる大切な機会になりました。簡単に引き受けすぎて、あとから困ることもあります。振り返ってみると、そこから活動の幅が広がっているんですよ。ですから、地域からのお声がけにはできる限り応えていきたいと思っています。

今後の目標や、新しく取り組みたいことを教えてください。

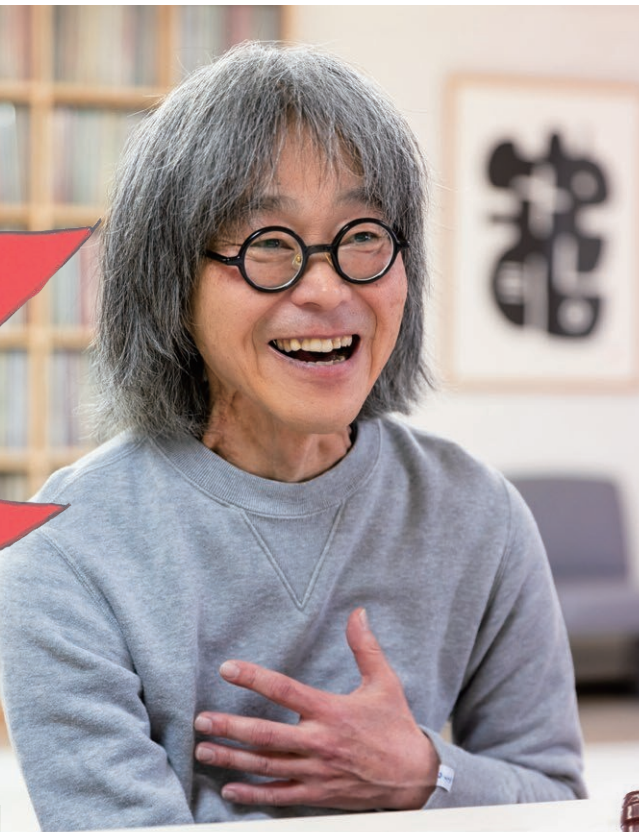
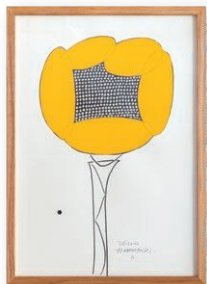
今春に行った台湾での個展など、最近海外での活動も増えてきました。来年はフランスへ渡り、敬愛するマティスが晩年に手がけた礼拝堂を訪ねる予定もあります。先日はジョーシアのワイナリーを訪れ

山口一郎インタビュー

ICHIRO YAMAGUCHI

香川に根を下ろして、世界を見つめる。

2011年、静岡から香川へと移住した画家・山口一郎氏。現在は坂出市にアトリエを構え、創作の日々を送っている。猪熊弦一郎への憧れから始まった香川との縁、そして作品に込められた思いを伺った。



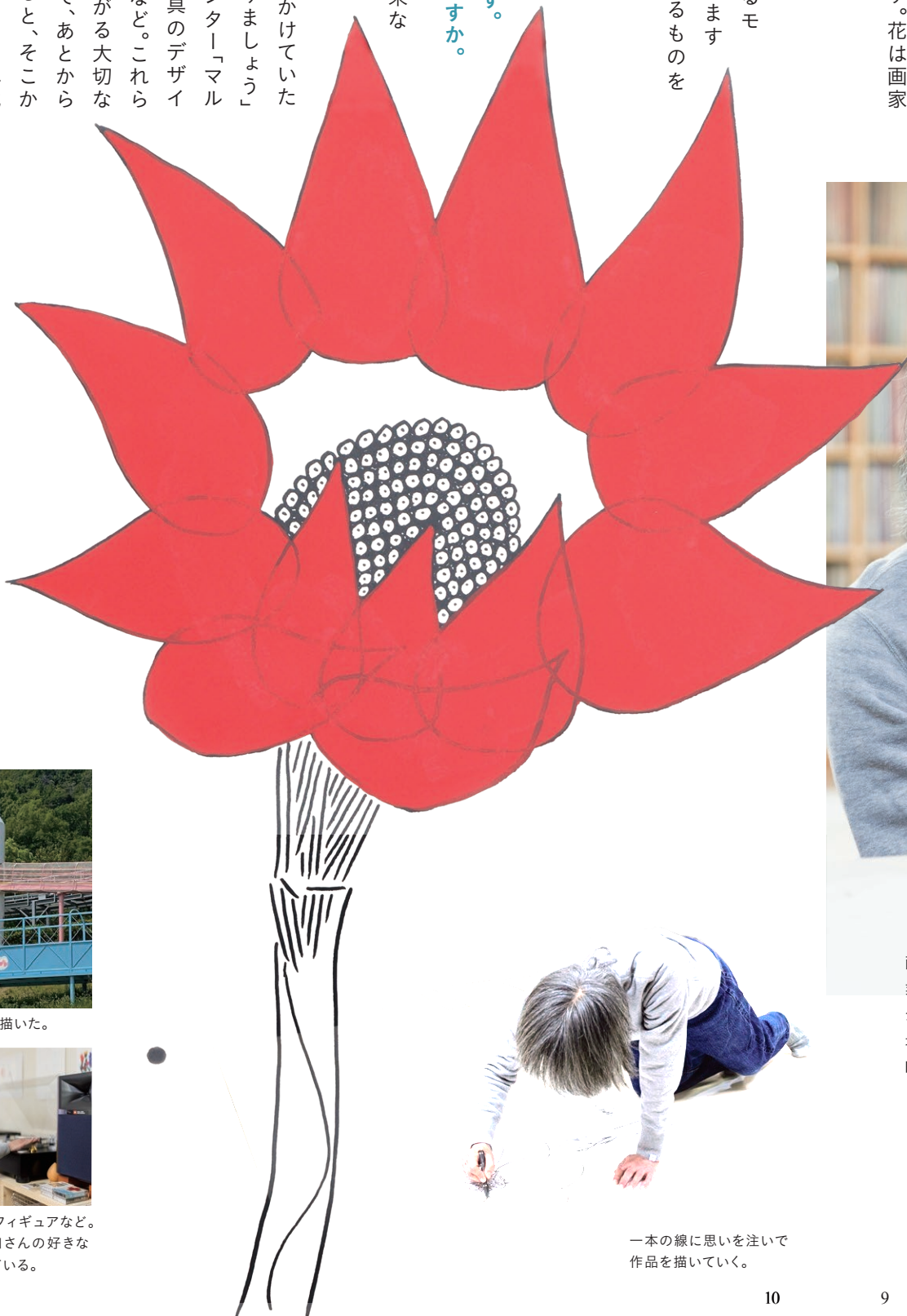
山口 一郎

画家。香川県在住。セツ・モードセミナー卒業。雑誌『Olive』『anan』などのイラストレーションでキャリアをスタートし、現在は香川県坂出市を拠点に活動。東京・南青山のDEE'S HALL (2023年Close)での定期的な個展をはじめ、各地のギャラリーやインテリアショップ (IDÉEなど)で展示会を開催。



香川の酒販店との縁でワインラベルを制作。ここからジョーシア行きの話へと広がった。

一本の線に思いを注いで作品を描いていく。



たのですが、そこで即興で描いた絵を気に入ってもらい、ワインのラベルを制作することになりました。言葉を超えて僕の絵が誰かに届く瞬間を、もっと世界中で積み重ねていきたいですね。また、絵画だけでなく立体作品や抽象画など、表現の幅もさらに広げていきたいと考えています。ただ、世界中のどこへ行っても、僕が帰る場所はここ香川です。これからもずっとこの穏やかな地で、暮らしを飾る一枚を描き続けていくつもりです。



三豊市にある「道の駅ふれあいパークみの」の遊具に絵を描いた。



レコード、本、フィギュアなど。アトリエは山口さんの好きなものであふれている。



大学で油絵を専攻した後、独学で陶芸を学んだニシクミさん。「陶芸はその土地に生まれ、その土地で消費されてきた文化」という考えを抱いていた。夫の実家がある香川県に移住し、この土地の土をこねて陶器を作りたいと思っていたが、納得できる土に出会えない。そんな中、ふと周りを見渡すと、ここは世界に誇るべき石の文化を育んできた土地であると気付く。それならば、世界的な銘石である庵治石で香川県ならではの作品を作りたいと思い立った。

話を聞けば、石の加工現場では大量の石粉が発生し、産業廃棄物として手間と費用をかけて処分していると言う。その石粉を有効利用できれば、伝統産業を守ることにもつながるはず。ところが、石粉は石材店により大きく性質が異なり、石粉のみの作品を作ることが難しい。少しでも多くの石粉を粘土に配合できないかと、5年にも及ぶ試行錯誤を重ね、50%以上という割合にたどり着いた。手にして驚くのはその軽さ。石の重厚なイメージを覆す滑らかな質感と軽やかさに加え、食洗機や電子レンジにも対応する。想像以上の優れた器が完成した。

香川の銘石から生まれる器、「Loc^{ロキ}i」。

陶磁器 × ニシクミ

世界一美しい花こう岩と称される銘石「庵治石^{あじいし}」。その石粉を使って生まれた「Loc^{ろき}i(炉器)」は、唯一無二の質感と機能性を持つ。ブランド誕生の裏には、作家の熱い思いがあった。



つるりとした手触りで軽く、吸水率が低い「Loc^{ろき}i」。食器としてはもちろん、香川県の特産品の一つ盆栽の鉢にも適している。令和6年度かがわ県産品コンクールで最優秀賞を受賞。香川の魅力を伝えるブランドとなった。

日本各地で作られる焼き物は、土器、陶器、磁器、そして炆器^{せつき}に分類される。この炆器は、陶器と磁器の中間のような性質を持つ。粘土と庵治石の粉から生まれるニシクミさんの作品も炆器に当たる。しかし、「せつき」と聞くと、石の器を思い浮かべる人が多い。そこで、完成した器を「炆器」と名付けた。窯の火を連想させる「炆」という字を用いたが、実は「ロキ」という言葉はラテン語で大地の神を意味する。香川の大地から生まれ、2千万年ほど前に地表に現れたという庵治石は、まさにこの地の神のような石。その石粉から生まれた器にふさわしいブランド名である。



「Loc^{ろき}i」の三つのこだわり。庵治石の粉末を半分以上使用する。全て手作業で作り上げる。機能性を追求し、日々使いたいくなる「使いやすさ」を目指す。



庵治石の粉は釉薬にも使用する。讃岐の風土を思わせる優しい色合いを生み出している。

さを知ってもらいたい」と願う。その思いで、庵治の地に陶芸体験ができる「せとうちうみぼたり」をオープンした。ここでは、海ごみとして集めたシーグラスを使った作品も作ることができ。海からインスピレーションを得るニシクミさん。優しい海に感謝し、海に優しい作品を生み出したのだ。

讃岐の大地を思わせる力強く美しい庵治石から生まれた器。たくさんの方の手で生まれる優しく輝く瀬戸内海を思わせる作品たち。讃岐の大地と瀬戸内海に出会ったニシクミさんが生み出すデザインは、日々の暮らしに彩りを添える。



ニシクミ (本名 西公美)

1988年、三重県尾鷲市に生まれる。
2011年、大学で油絵を専攻し、美術教育課程を修了。
2014年ごろから陶芸の勉強を始める。
2018年、ご主人に伴い香川県に移住。
2020年、香川県三木町に「アトスペースにしくみ」オープン。
2025年、「アトスペースにしくみ牟礼工房」として高松市牟礼町に工房を構える。
2026年、陶芸体験ができる「せとうち うみぼたり」を高松市庵治町にオープン。

「せとうち うみぼたり」で人気のシーグラスを使った作品。海ごみが瀬戸内海を思わせるグラデーションに生まれ変わる。



三木町では主に子どもアート教室を開き、「せとうちうみぼたり」は週末の陶芸体験教室を開催している。2026年8月9日・10日は特別に栗林公園で陶芸体験ができる(問い合わせは栗林庵へ)。

アトスペースにしくみ

香川県木田郡三木町上高岡399
TEL 080-1624-2493
<https://www.art-space-2493.com/>

